烏瓜

松岡隆子

川波は力ゆるめず葛嵐

榠樝の実疵もつものに日の差して

ほつこりと十月の日が水の上

松と話し風と話して松手入

松の影楠の影秋澄めり

神南備の夕風あをき新松子

仰がれて十月桜日を溢す

木犀の散るに形よき水溜り

秋草のどの色となく昏れゆける

秋の日の落ちなむとして膨らめり

その先はとうに日暮れて烏瓜

破蓮を見てゐし時間持ち帰る